

（若狭鯖街道熊川宿資料館（宿場館） 展示説明：熊川の文化）

熊川の文化

熊川は若狭街道にあることから、長らく、昔の首都であった京都とアジア大陸との文化交流の場となってきました。日本海から人や物資が京都へ向かう途中で熊川を経由し、都から信仰や祭礼、美術品が次々と持ち込まれました。

文化の交差点

多くの著名な芸術家、文人、芸人、宗教家が旅の途中、熊川で過ごしました。浄土真宗の宗祖である蓮如（1415 年～1499 年）は、1475 年に得法寺の僧侶としばらくの間を過ごし、後に得法寺は浄土真宗に改宗しました。熊川城主の娘である麿香（1544 年～1618 年）と結婚した著名な武将であり、著名な作家であった細川藤孝（細川幽斎としても知られる 1534 年～1610 年）は、1567 年に連歌という詩の会を主催するために訪れました。有名な連歌の詩人の里村紹巴（1525 年～1602 年）は、1568 年に熊川宿に滞在しました。

熊川における京文化

京文化の影響は、熊川宿の伝統的な祭りに最も顕著に表れています。毎年 5 月 3 日に行われる白石神社の祭りでは、豪華な織物で飾られた大きな山車が、京都の有名な祇園祭のように街中を練り歩きます。夏には、京都北部の八瀬村や大原村で発祥した鉄扇踊りという踊りが、熊川宿で踊られます。この催しは大正時代（1912 年～1926 年）に途絶えましたが、町民や伝統芸能の保存会の尽力により、1998 年に復活しました。